

ウポポイ100万人集客への戦略

▶ 100万人達成の阻害要因は？

100万人集客の意義は、アイヌ民族に特別な関心を持たない方々にも、ウポポイ訪問を通じて、アイヌ文化の魅力を知ってもらうこと。その為には、一般の観光客が**わざわざ訪れたい**（**リピートしたい**）**魅力**が不可欠である。

- A) アイヌ文化に関心を持たない人をも惹きつけるコンテンツが少ない。
- B) 気軽に行けない（遠距離、交通機関が不便）
- C) ウポポイ内を巡って楽しむ施設（コンテンツ）が少ない
- D) 夜が弱い
- E) 観光ルートが出来ていない（広域ネットワークが弱い）
- F) 周辺の魅力が弱い（敷地内で完結。町との連携が弱い）

A) アイヌ文化に関心を持たない人をも惹きつけるコンテンツが少ない

▶ 話題性のある目玉コンテンツを作る

① 人気マンガ との コラボ構想

- 人気マンガのファンに向けたコンテンツで100万人動員を目指す。
- 最先端**VR技術**でアイヌの世界観や当時の生活を体験。イオマンテの再現など。
(例)ポンペイの遺跡では、3D・VRによるツアーを実施



② ポロトの森の遊歩道を利用した アイヌアート展とナイト・アトラクション

- 数年おきに**ウポポイ・アイヌ芸術祭**をポロトの森で展開する。
- アイヌ民族のユーカラ等デジタルアートで再現する。
- 森の中の様々なアート作品がプロジェクション・マッピングやライティングにより昼間と全く異なる姿で浮かび上がる。
(例) 阿寒のカムイ・ルミナと連携



例) 飛生芸術祭2022



B) 気軽に行けない（遠路、交通が不便）

▶ 主要宿泊地からの手軽な交通手段

- ① 登別からのウポポイ・バス／ウポポイ列車
 - 29km／26分の時間をエンターテイメントする／アイヌ民族のガイド
 - * アドベンチャー・トラベルの異文化ツアーに最適
 - 滞在型で夕食を楽しむ（レストランシアターやおかげ横丁）
 - 夜の魅力的なコンテンツ（ナイトタイム・エコノミー）が必要
- ② ウポポイ道州制特区による登別や洞爺湖からの乗合タクシーや乗合ライドシェアの社会実験
 - ライドシェアはシェアリングエコノミーの1つで、一般のドライバーが自家用車で目的地まで運んでくれるサービス。基本的にタクシーよりも料金設定が安く、別の乗客との相乗りなら更に安く移動できる。
 - 日本でもライドシェア導入の機運が高まっている。
 - 相乗りプラットフォーム・ライドシェア 例) **notteco × Uber**
 - * アイヌ民族の運転手・ガイド
- ③ ウポポイを中核とした観光型MaaSの整備
 - 乗合タクシーや乗合ライドシェアを組み込んだ観光型MaaS
 - * 例) 日光をテーマパークとして楽しむ「JTBの日光MaaS」

C) ウポポイを巡って楽しむ施設が少ない

▶ ウポポイは全体を一望できる公園形式になっており、
テーマパーク形式の、順路に沿って様々なコンテンツを
楽しめるポリネシア文化センターを参考にすべき！

① 火のイベント

- アペフチカムイの火の祭り
- お客様とたいまつ行進



② 多様なショーハウスやショップ・ レストラン・カフェなどが順路に点在

参考) ポリネシア様式の花ワイアン・キルトショップなど



③ カヌー・ツアー（連結した丸木舟）

- 筏の水上レストランへの渡し舟
- 丸木舟のアドベンチャー・ツアー



参考) ポリネシア様式のカヌー・ツアー

④ ユーカラ(英雄叙事詩)を伝える カムイニ・アートを巡る。

- トーテムポール6本一組×4セットでユーカラの起・承・転・結の物語を伝える。
- 全道のアイヌ文化の伝承及び木彫技術の普及・継承に繋がる。



ポリネシア文化センター

阿寒:イオマップの庭

D) 夜が弱い

▶ 地域経済に貢献するナイトタイム・エコノミー

① 有名シェフのレストラン・シアター

- アイヌ料理の提供＋イブニングショー
- 新設が難しければ、**現在施設のリニューアル**



② ポロトの森のナイトアトラクション

- 夜間湖畔に隣接する道を歩きながら、繊細さと美しさを追求したプロジェクションマッピングでアイヌの世界を体験できる空間を演出する。
- 阿寒のカムイルミナと連携する。



例) 阿寒のカムイルミナ



・森の中に設置された様々なアート作品がプロジェクションマッピングやライティングにより、昼間とまったく異なる姿で浮かび上がる。



・配置された昆虫の体にアイヌ紋様が浮かぶ。キノコの表面が光り、広がっていく。木の葉が一枚一枚光る。苔が菌糸が広がるように光り、広がっていく。木の幹が光る。



・ライトを当てると、森の中にタイムカメラのように過去の暮らしぶりが浮かぶ。

E) 観光ルートが出来ていない

(全道のアイヌ文化地域とのネットワークが弱い)

▶ 全道アイヌ拠点のサテライトづくり

① 全道のアイヌ民族の拠点をサテライトとして充実させる

○ アイヌ民族全体の象徴空間として、各地の多様性を活かす為にも重要

② 広域の観光周遊ルート

○ 道内6地域を結ぶユーカラ街道を広域観光周遊ルートに認定してもらう

○ 各サテライトと連携した魅力的なコースづくり

○ 縄文遺跡との連携(世界遺産との一体的なプロモーション)

* 道外の人達には、縄文からアイヌの歴史が理解しやすい

③ 近隣観光地との連携

○ 近隣の行政や観光協会などで運営協議会を設置し、地域DXの補助金を活用した交通ネットワークの構築(デジタル田園都市国家構想交付金)

○ 近隣観光地と連携し、魅力的なモデルコースづくり(共同プロモーション)

* 登別温泉 (宿泊者数120万人/車で26分)

* 洞爺湖温泉 (宿泊者数70万人/車で66分)

* ニセコ・エリア (宿泊者数70万人/車で83分)

* 支笏湖温泉 (入込客100万人/宿泊者数15万人/車で45分)

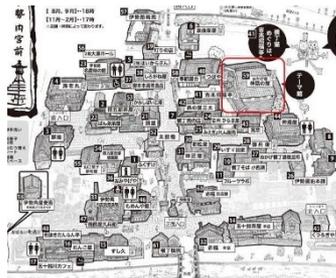
F) 周辺の魅力が弱い

(ウポポイ敷地内で完結。白老町内の連携が弱い)

▶ ウポポイと連携した機能の強化が必要

① ウポポイ版のおかげ横丁の開発 (次ページ以降の資料)

- 白老駅からウポポイまで、おかげ横丁(商店街)を作る
- アイヌ文化の美しいコタン(集落)・町並み作り



② アイヌ民泊や町家宿のコタンづくり

- 町内にアイヌ民泊や町家宿。10~20戸で修旅を受入
- 横丁内の各商店の2階を客室に作り、横丁案内所で管理が可能。最大80室くらいの運営が可能となり、おかげ横町の多様な施設との連携で、夕食の提供やアイヌ文化体験の提供が可能となる。

③ 異文化交流のガイド事業(アイヌ文化体験コンテンツ)

- アドベンチャートラベルを核にした各種のガイド事業者と連携。
- おかげ横丁の事業者も参画し、経営の安定を図る。(ウポポイが支援)

おかげ横丁 候補地

- 殆どが公有地。現在の観光案内所や公園を取り込む
エリア規模：24,500㎡(7,300坪) 幅100～35m／長さ470m
- 伊勢神宮のおかげ横丁は、約800m



おかげ横丁 イメージ案

- JR白老駅からウポポイまでのゾーンをアイヌ文化を楽しむエリアとして造成する。(7,300坪／導入路165m／横丁470m)
- 伊勢のおかげ横丁は約800m。参道商店街の道幅10m／店舗間口・奥行10mに倣い、**道幅10m／店舗間口・奥行10m**で計画 (基準店舗  41店)
- アイヌ文化の催し物会場・土産店・食堂・ギャラリー・カフェ・旅館や町家宿など

